

令和元年度 水環境における放射性物質の モニタリング結果(暫定版:抜粋)

令和2年12月1日
環境省

全国

<全体概要>

- 47都道府県において、公共用水域、地下水とも各110地点で実施。
- 全β放射能及び検出されたγ線放出核種は、全て過去の測定値の傾向の範囲内であった。

<自然核種>

- 地下水の一部の地点で、Pb-212、Tl-208、Th-234、U-235が高い地点があったが、天然の土壤岩石の影響によるものと考えられた。

<人工核種>

- 公共用水域の一部の地点で、検出下限値を超える人工核種Cs-134、Cs-137が確認されたが、過去の測定値の傾向の範囲内であった。

福島県及び周辺地域

○ 放射性セシウム

<公共用水域>

- 福島県及び周辺8都県の約600地点で実施。

水質

- 数地点で検出されているが、それ以外の地点では不検出であった。

底質

- 河川：東京電力福島第一原子力発電所の20km圏内（以下、「20km圏内」という。）の一部地点など限られた地点において比較的高い数値がみられるが、8割以上の地点で200Bq/kg未満であった。
- 湖沼：20km圏内など一部限られた地点において比較的高い数値がみられるが、約8割の地点で3,000Bq/kg未満であった。
- 沿岸域：7割以上の地点で200Bq/kg未満であった。

<地下水>

- 福島県及び周辺7県の約400地点で実施。
- 全地点において不検出であった。

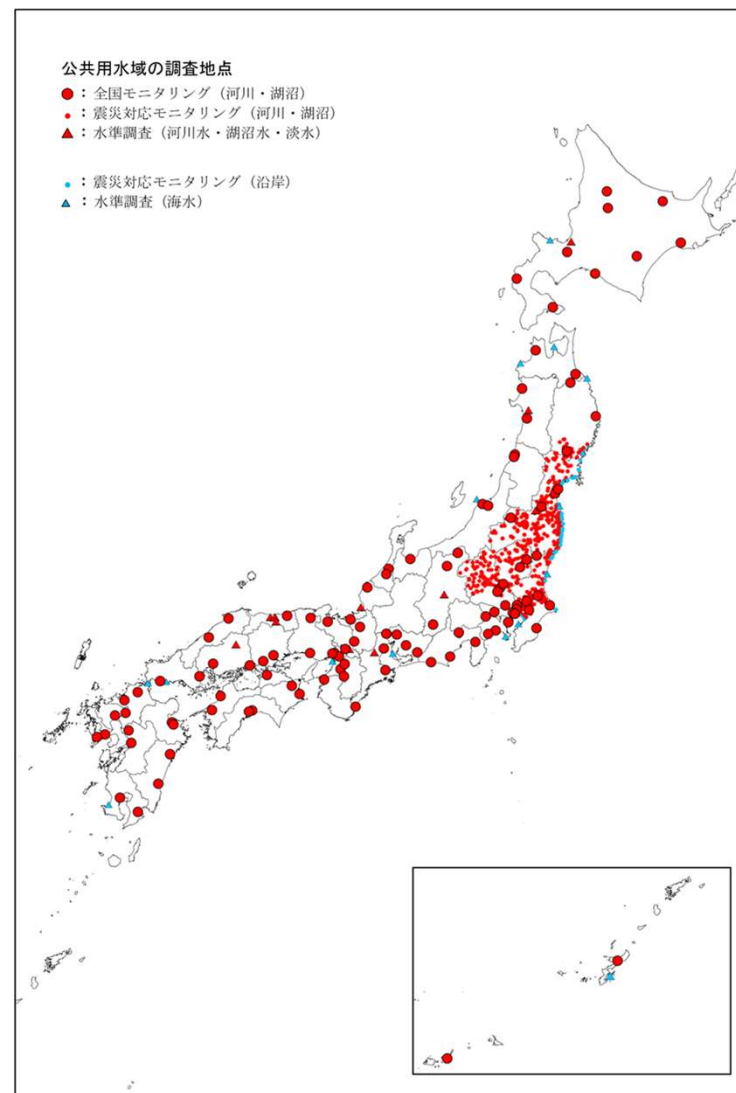
○放射性セシウム以外の核種

Sr-89：地下水について、全地点において不検出であった。

Sr-90：公共用水域の底質について、一部の地点で検出されているものの、比較的低いレベルで推移している。公共用水域の水質及び地下水については、全地点において不検出であった。

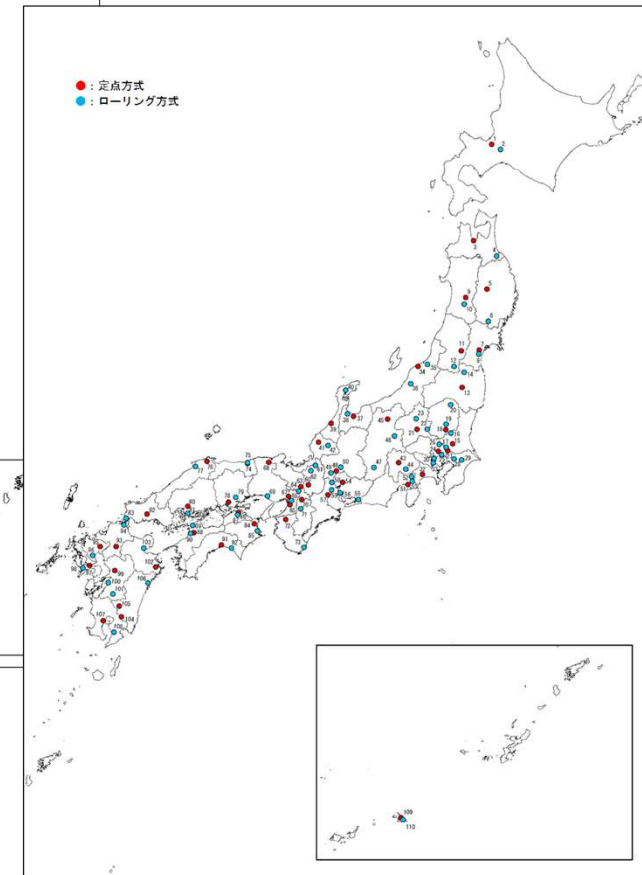
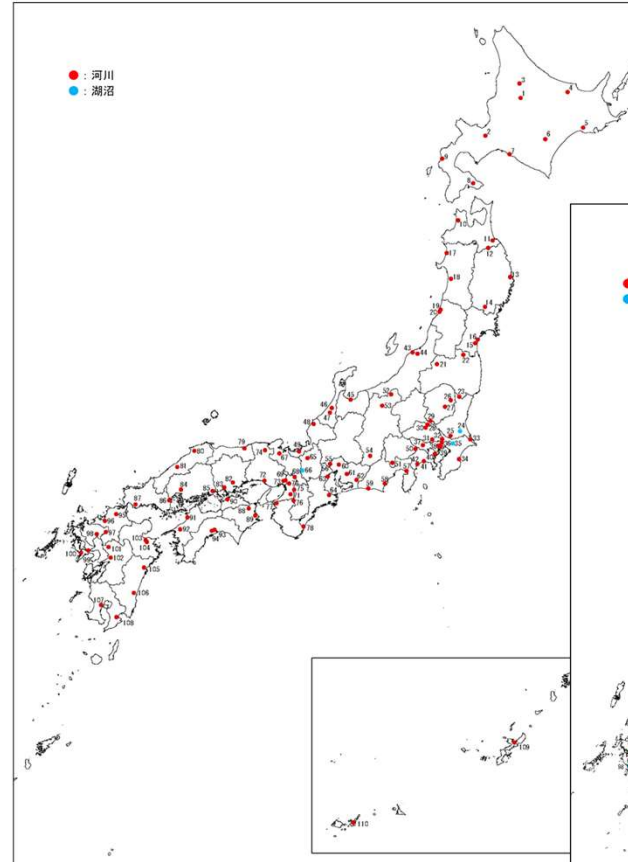
その他のモニタリング

- 原子力規制委員会が実施する環境放射能水準調査（以下、「水準調査」という）の結果は、全てが過去の測定値の傾向の範囲内であった。



第1部 全国の放射性物質のモニタリング(調査内容)

1. 地点
公共用水域 110地点
(河川:107地点、湖沼:3地点)
地下水:110地点
2. 対象:
公共用水域 水質及び底質
地下水 水質
3. 頻度:公共用水域 年1回
地下水 年1回
※年間変動の有無確認のため、
全国2地点で年4回調査。
4. 対象項目:全β放射能濃度測定、
γ線スペクトロメトリー測定



第1部 全国の放射性物質のモニタリング(分析対象γ線核種)



(資料2 p18)

対象としたγ線核種は、以下の62核種(自然核種18、人工核種44)

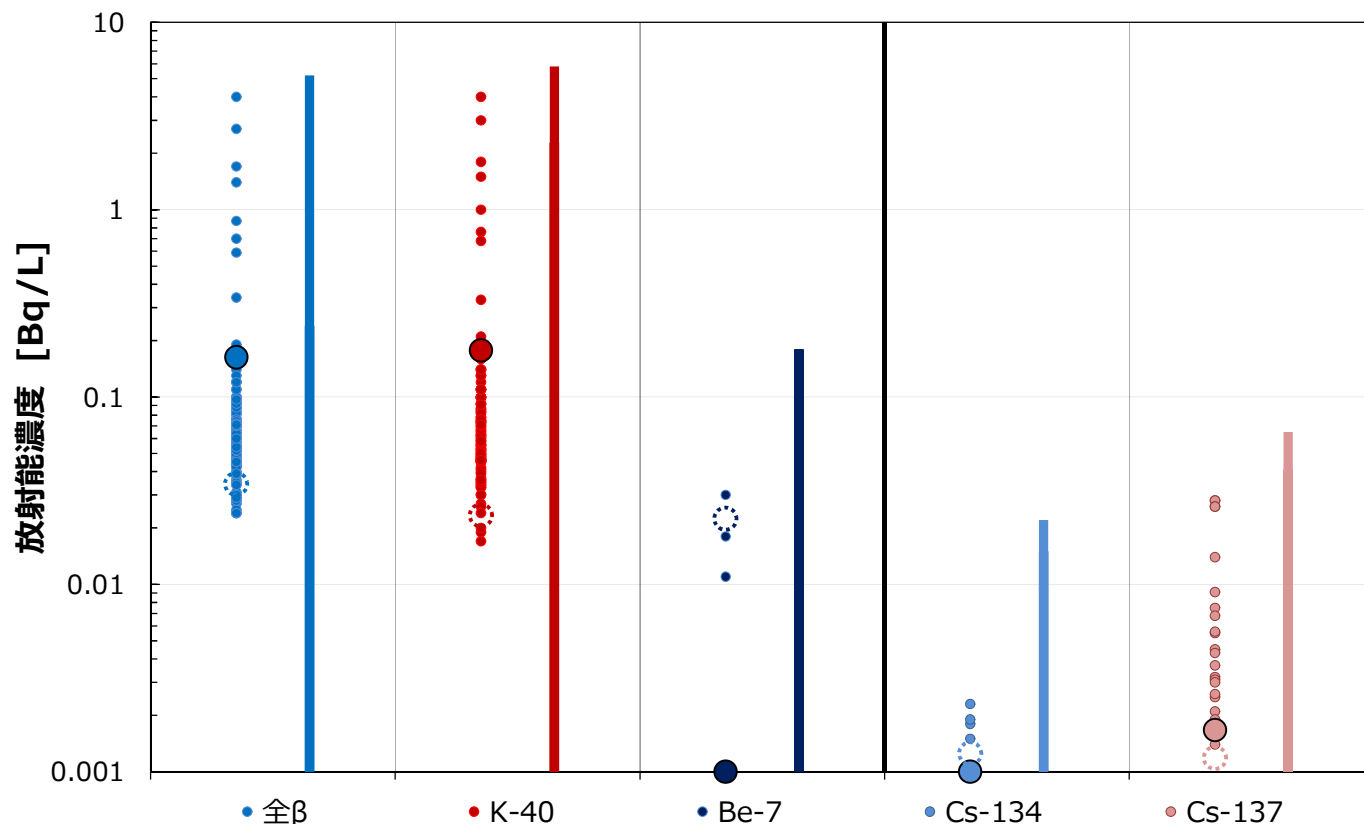
自然核種(18核種)		人工核種(44核種)				
Ac-228	Ra-224	Ag-108m	Co-58	I-131	Np-239	Te-129m
Be-7	Ra-226	Ag-110m	Co-60	I-132	Ru-103	Te-132
Bi-212	Th-227	Am-241	Cr-51	La-140	Ru-106	Y-91
Bi-214	Th-228	As-74	Cs-134	Mn-54	Sb-124	Y-93
K-40	Th-231	Ba-140	Cs-136	Mn-56	Sb-125	Zn-63
Pa-234m	Th-234	Bi-207	Cs-137	Mo-99	Sb-127	Zn-65
Pb-210	Tl-206	Ce-141	Fe-59	Nb-95	Sr-91	Zr-95
Pb-212	Tl-208	Ce-143	Ga-74	Nb-97	Tc-99m	Zr-97
Pb-214	U-235	Ce-144	Ge-75	Nd-147	Te-129	

第1部 全国の放射性物質のモニタリング(結果:公共用水域)



(資料2 p19~20)

水質



<凡例>

- : 検出値
- (太) : 平均値 (算術平均、不検出=0として算出)
- (点線) : 検出下限値の平均値 (算術平均)
- (太) : 過去の測定値 (平成26年度~30年度の全国モニタリング及び平成12年度~令和元年度(人工核種については平成23年3月11日~平成26年3月10日は除く)の水準調査等) の範囲

[全β放射能]

- 検出値は不検出~4.0 Bq/Lで、全て過去の測定値の傾向の範囲内であった。

[γ線放出核種]

- 4種類の核種(自然核種2核種、人工核種2核種)が検出され、その他の核種は全ての地点で不検出であった。
- 自然核種の濃度は全て過去の測定値の傾向の範囲内であった。
- 人工核種の濃度はCs-134が0.0023 Bq/L以下、Cs-137が0.028 Bq/L以下であり、全て過去の測定値の傾向の範囲内であった。

第1部 全国の放射性物質のモニタリング(結果:公共用水域)



(資料2 p21~22)

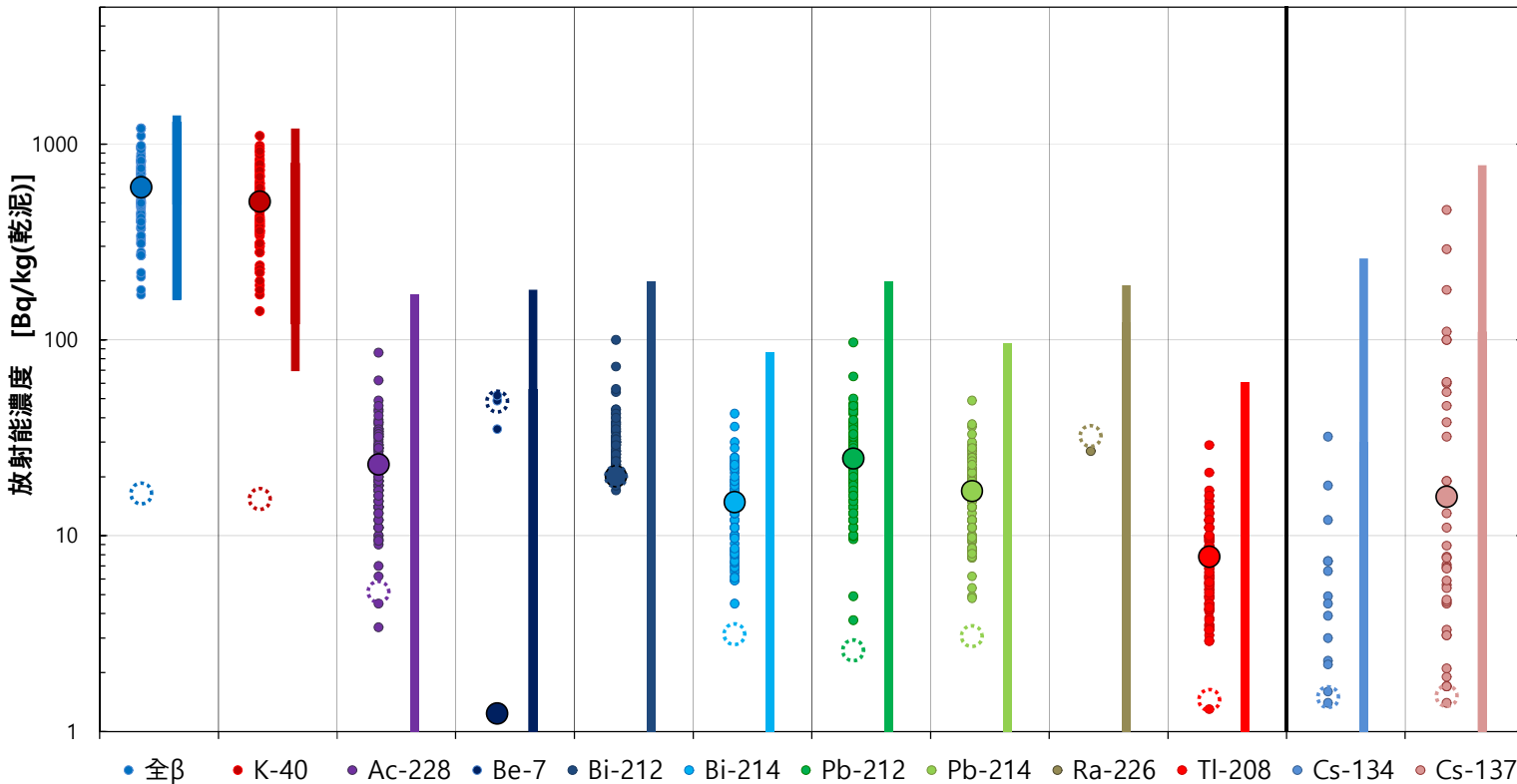
底質

[全β放射能]

- 全ての地点で検出され、その検出値は170 ~1,200 Bq/kgであった。全ての地点で過去の測定値の傾向の範囲内であった。

[γ線放出核種]

- 11核種（自然核種9核種、人工核種2核種）が検出され、それ以外の核種は全て不検出であった。
- 自然核種の濃度は、全て過去の測定値の範囲内であった。
- 人工核種の濃度は、Cs-134が32Bq/kg以下、Cs-137が460Bq/kg以下であり、全て過去の測定値の傾向の範囲内であった。



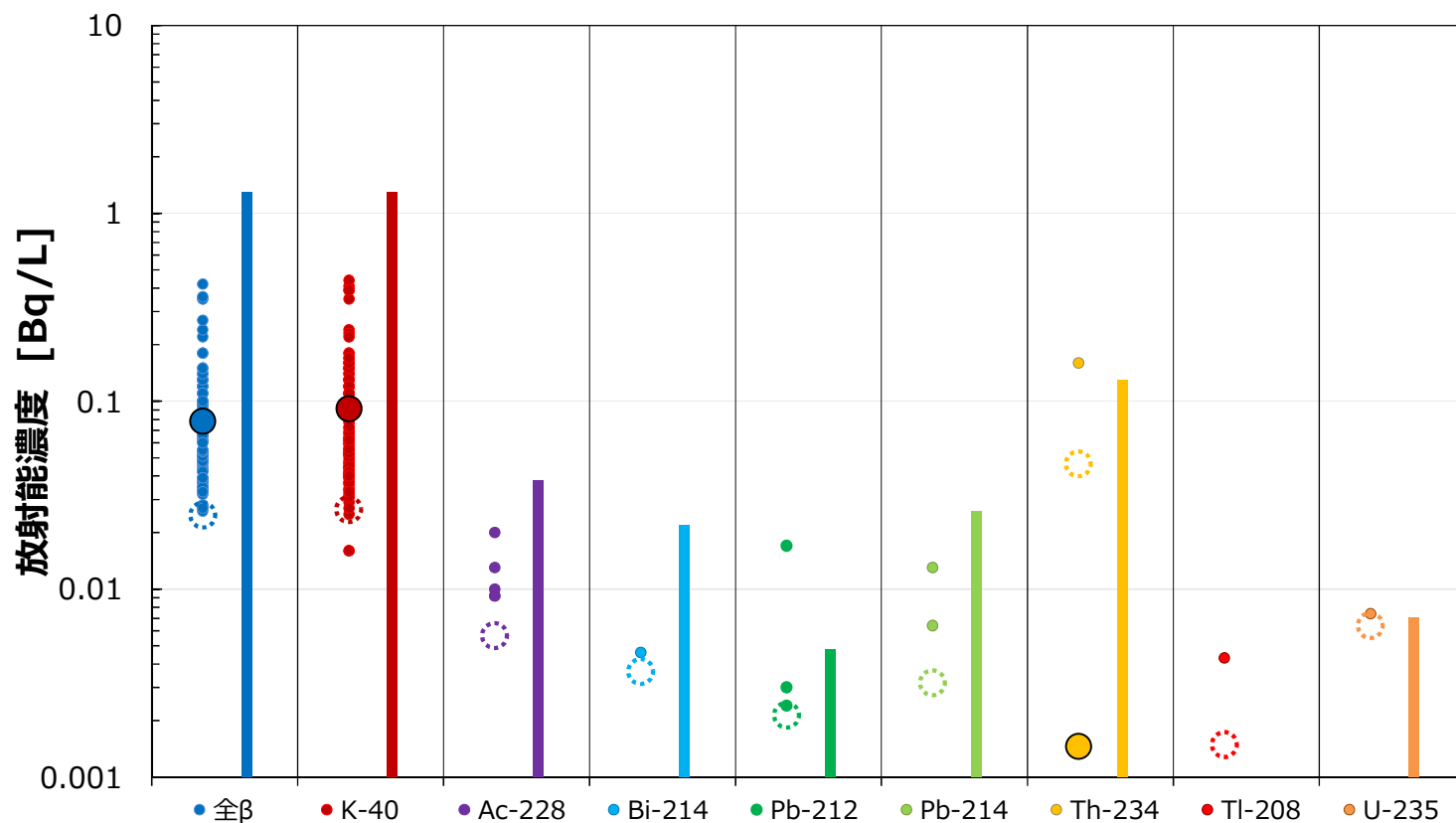
<凡例>

- : 検出値
- : 平均値 (算術平均、不検出=0として算出)
- : 検出下限値の平均値 (算術平均)
- : 過去の測定値 (平成26年度~30年度の全国モニタリング及び平成12年度~令和元年度(人工核種については平成23年3月11日~平成26年3月10日は除く)の水準調査等) の範囲

第1部 全国の放射性物質のモニタリング(結果:地下水)



(資料2 p23~24)



<凡例>

- : 検出値
- : 平均値 (算術平均、不検出=0として算出)
- : 検出下限値の平均値 (算術平均)
- : 過去の測定値 (平成26年度~30年度の全国モニタリング及び平成12年度~令和元年度の水準調査等) の範囲

[全β放射能]

- 検出値は不検出~0.42 Bq/Lであった。全ての地点で過去の測定値の傾向の範囲内であった。

[γ線放出核種]

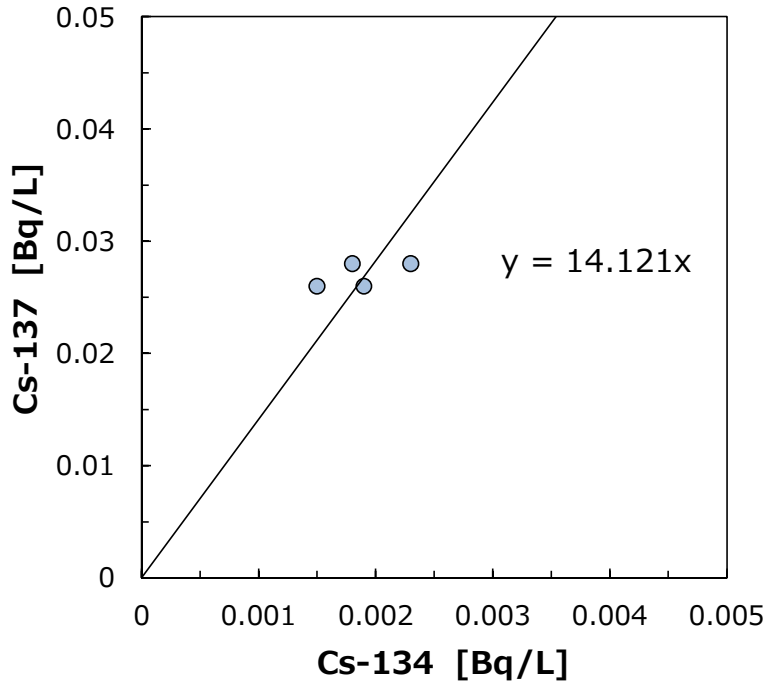
- 自然核種8核種以外は全て不検出であった。
- 一部の地点でPb-212、Th-234、Tl-208及びU-235が過去の測定値の範囲を超過したが、通常天然の土壌岩石などに含まれるものであった。

第1部 全国の放射性物質のモニタリング (Cs-137/Cs-134比の状況)

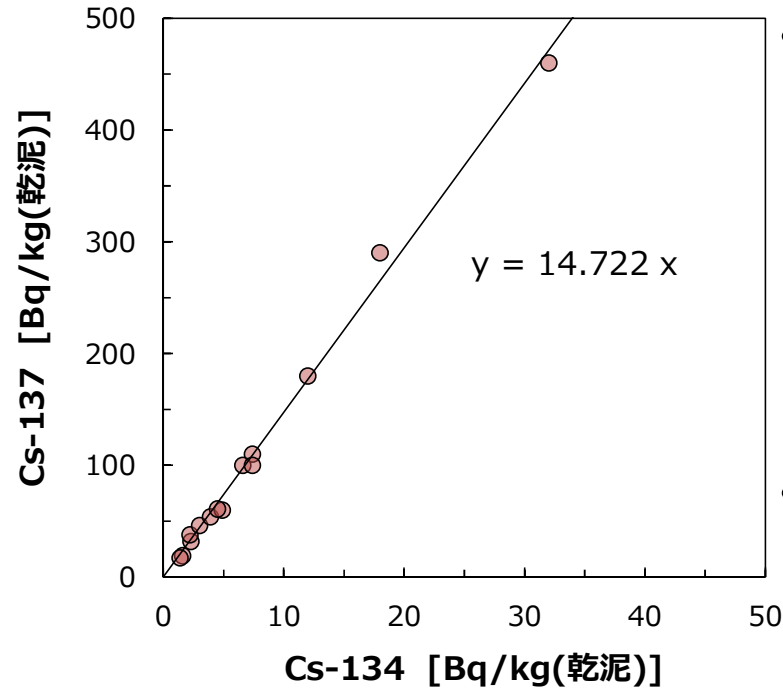


(資料2 p30,36)

水質



底質



[セシウムの由来]

- Cs-134とCs-137の両者が検出された水質4地点、底質14地点（全て関東ブロック）について、それらの濃度の関係を確認した結果、その濃度比（Cs-137/Cs-134）は水質は約14.1、底質は約14.7であった。
- 平成23年3月に放出されたCs-137とCs-134の令和元年9月時点における理論的な比率（約14.4）とよく一致した。
- このことから、東北・関東ブロックで検出されたCs-134及びCs-137は、福島原発事故由来のものと考えられた。

(参考: 半減期を考慮したCs-134とCs-137の濃度比の時間変化)

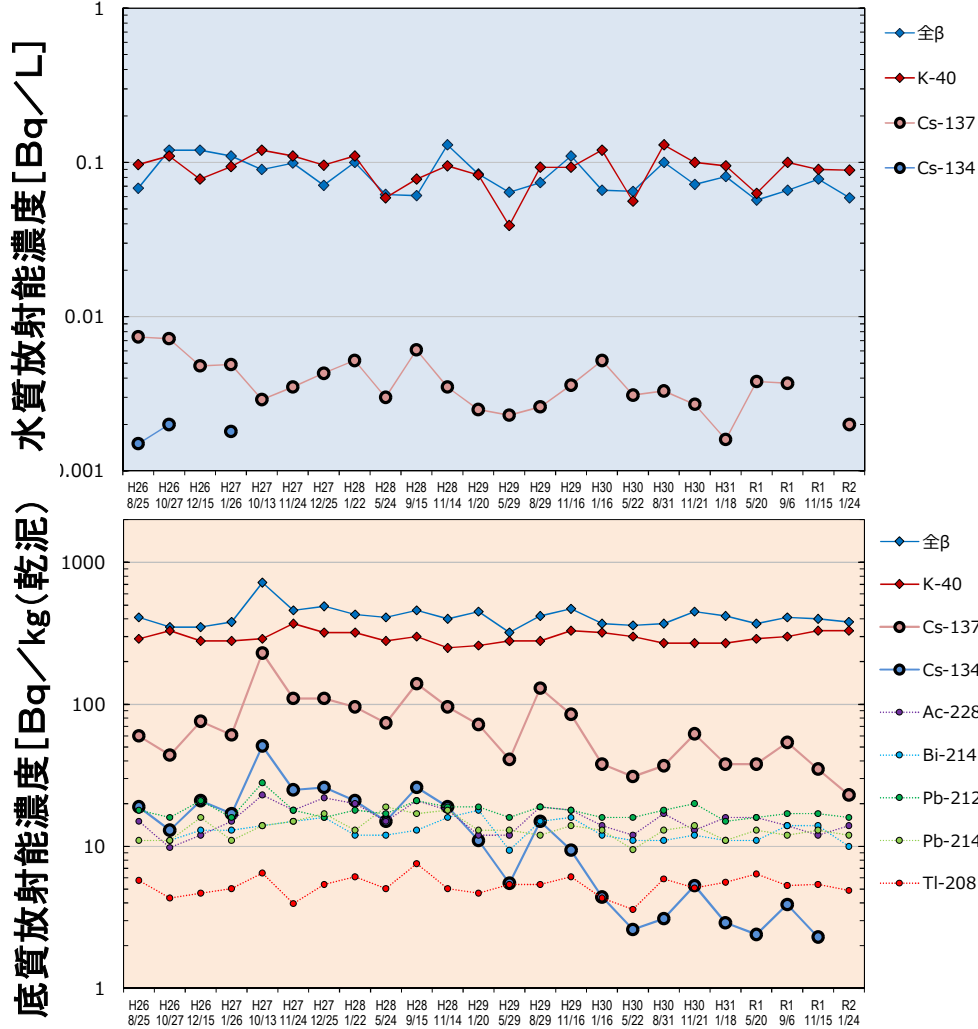
核種	半減期 [年]	平成23年3月	平成25年3月	平成27年3月	平成29年3月	令和元年9月
Cs-134	2.0648	1	0.51	0.26	0.13	0.06
Cs-137	30.1671	1	0.96	0.91	0.87	0.82
Cs137/Cs134		1	1.87	3.50	6.54	14.4

第1部 全国の放射性物質のモニタリング(年間変動調査地点の推移)

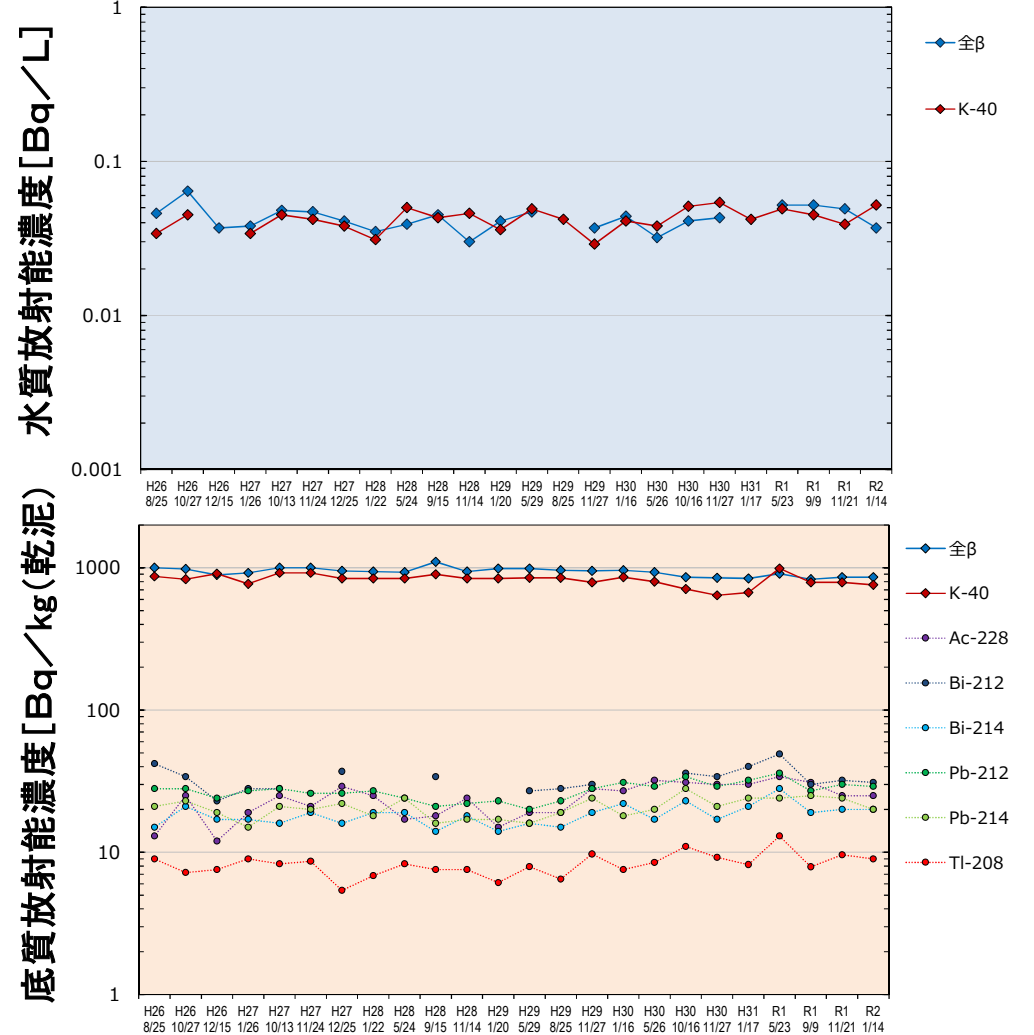


(資料2 p37~41)

東日本



西日本

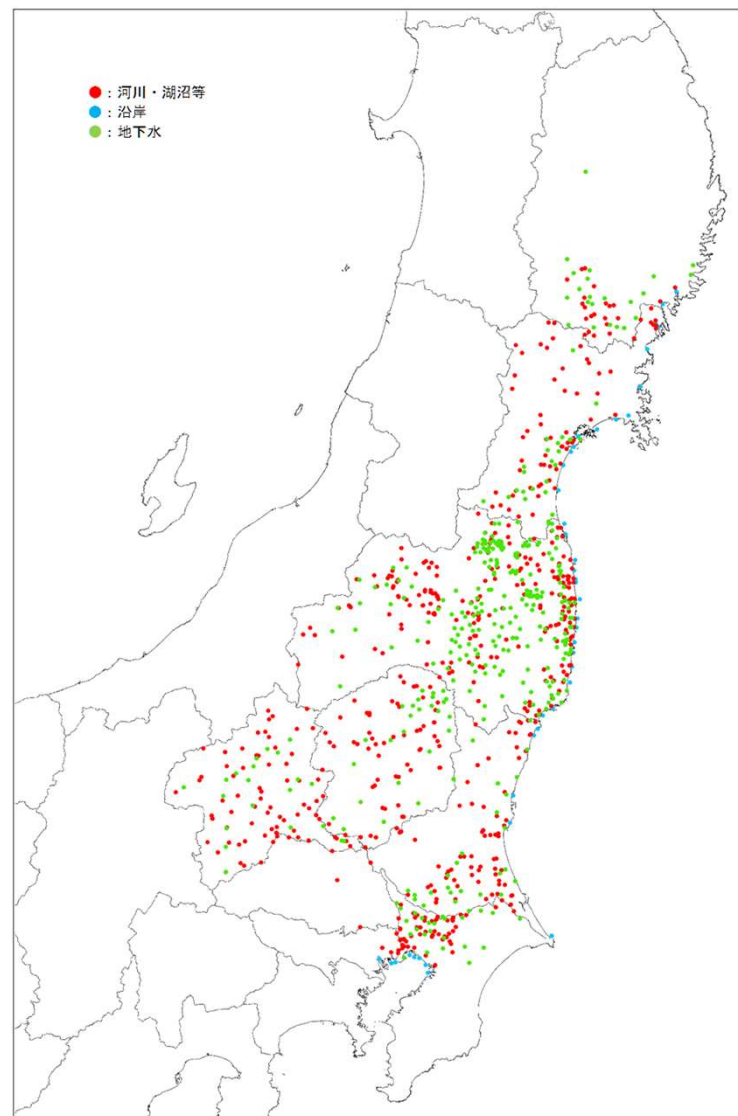


第2部 福島県及び周辺地域のモニタリング(調査内容)



(資料2 p43)

1. 地点
公共用水域 約600地点
(河川、湖沼、沿岸域)
地下水 約400地点
2. 対象
公共用水域 水質及び底質
地下水 水質
3. 頻度
公共用水域 年2～10回
地下水 年1～4回
4. 対象項目
主にCs-134及びCs-137



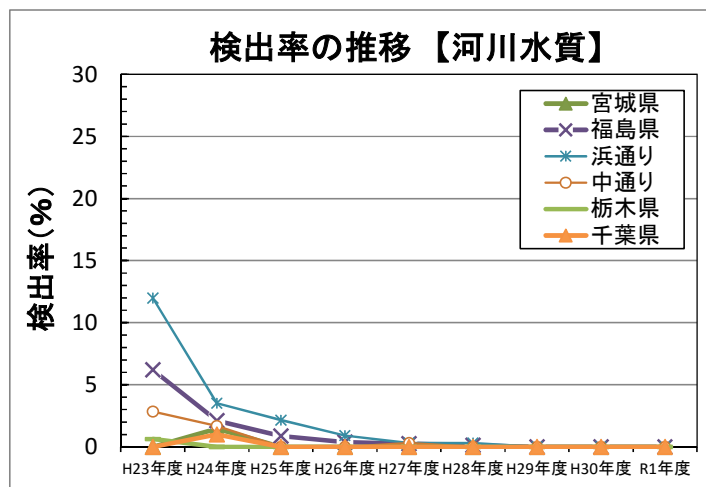
第2部 福島県及び周辺地域のモニタリング(結果:水質)



(資料2 p51)

河川

- 平成29年度以降は全ての地点において放射性セシウムは検出されていない。



都県	令和元年度				平成23～令和元年度			
	検体数	検出数	検出率 (%)	測定値の範囲 (Bq/L)	検体数	検出数	検出率 (%)	測定値の範囲 (Bq/L)
岩手県	79	0	0.0	不検出	639	0	0.0	不検出
山形県	0	0	-	-	10	0	0.0	不検出
宮城県	193	0	0.0	不検出	1,683	3	0.2	不検出 ~ 6.3
福島県	812	0	0.0	不検出	6,947	59	0.8	不検出 ~ 20
浜通り	321	0	0.0	不検出	2,814	47	1.7	不検出 ~ 20
中通り	323	0	0.0	不検出	2,796	12	0.4	不検出 ~ 8.0
会津	168	0	0.0	不検出	1,337	0	0.0	不検出
茨城県	212	0	0.0	不検出	1,826	0	0.0	不検出
栃木県	278	0	0.0	不検出	2,378	1	0.0	不検出 ~ 1.0
群馬県	214	0	0.0	不検出	1,799	0	0.0	不検出
埼玉県	8	0	0.0	不検出	66	0	0.0	不検出
千葉県	200	0	0.0	不検出	1,684	2	0.1	不検出 ~ 1.3
東京都	8	0	0.0	不検出	71	0	0.0	不検出
総計	2,004	0	0.0	不検出	17,103	65	0.4	不検出 ~ 20

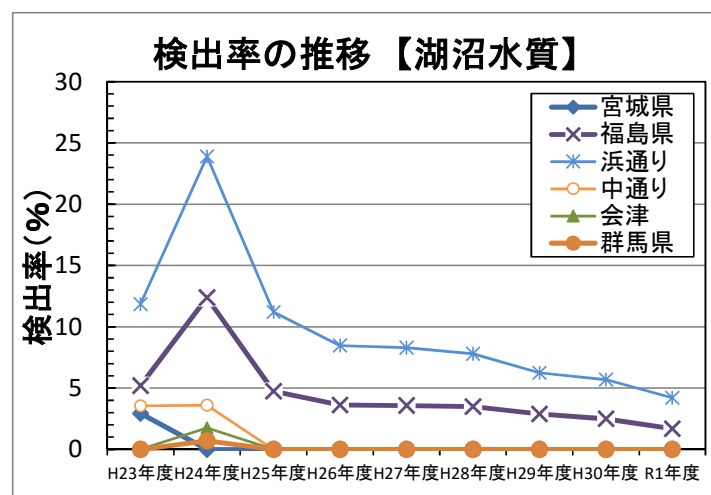
第2部 福島県及び周辺地域のモニタリング(結果:水質)



(資料2 p52)

湖沼

- 平成25年度以降は福島県浜通り以外の地域では検出されていない。
- 令和元年度の測定値の範囲は不検出～8.7Bq/L。



県名	令和元年度				平成23～令和元年度			
	検体数	検出数	検出率 (%)	測定値の範囲 (Bq/L)	検体数	検出数	検出率 (%)	測定値の範囲 (Bq/L)
山形県	0	0	-	-	4	0	0.0	不検出
宮城県	113	0	0.0	不検出	930	1	0.1	不検出 ~ 3.0
福島県	814	14	1.7	不検出 ~ 8.7	6,368	262	4.1	不検出 ~ 100
浜通り	336	14	4.2	不検出 ~ 8.7	2,773	253	9.1	不検出 ~ 100
中通り	114	0	0.0	不検出	904	5	0.6	不検出 ~ 5.0
会津	364	0	0.0	不検出	2,691	4	0.1	不検出 ~ 5.1
茨城県	144	0	0.0	不検出	1,173	0	0.0	不検出
栃木県	64	0	0.0	不検出	520	0	0.0	不検出
群馬県	186	0	0.0	不検出	1,510	1	0.1	不検出 ~ 1.0
千葉県	37	0	0.0	不検出	373	0	0.0	不検出
総計	1,358	14	1.0	不検出 ~ 8.7	10,878	264	2.4	不検出 ~ 100

沿岸域

- 過年度を含め、全ての地点において放射性セシウムは検出されていない。

地下水

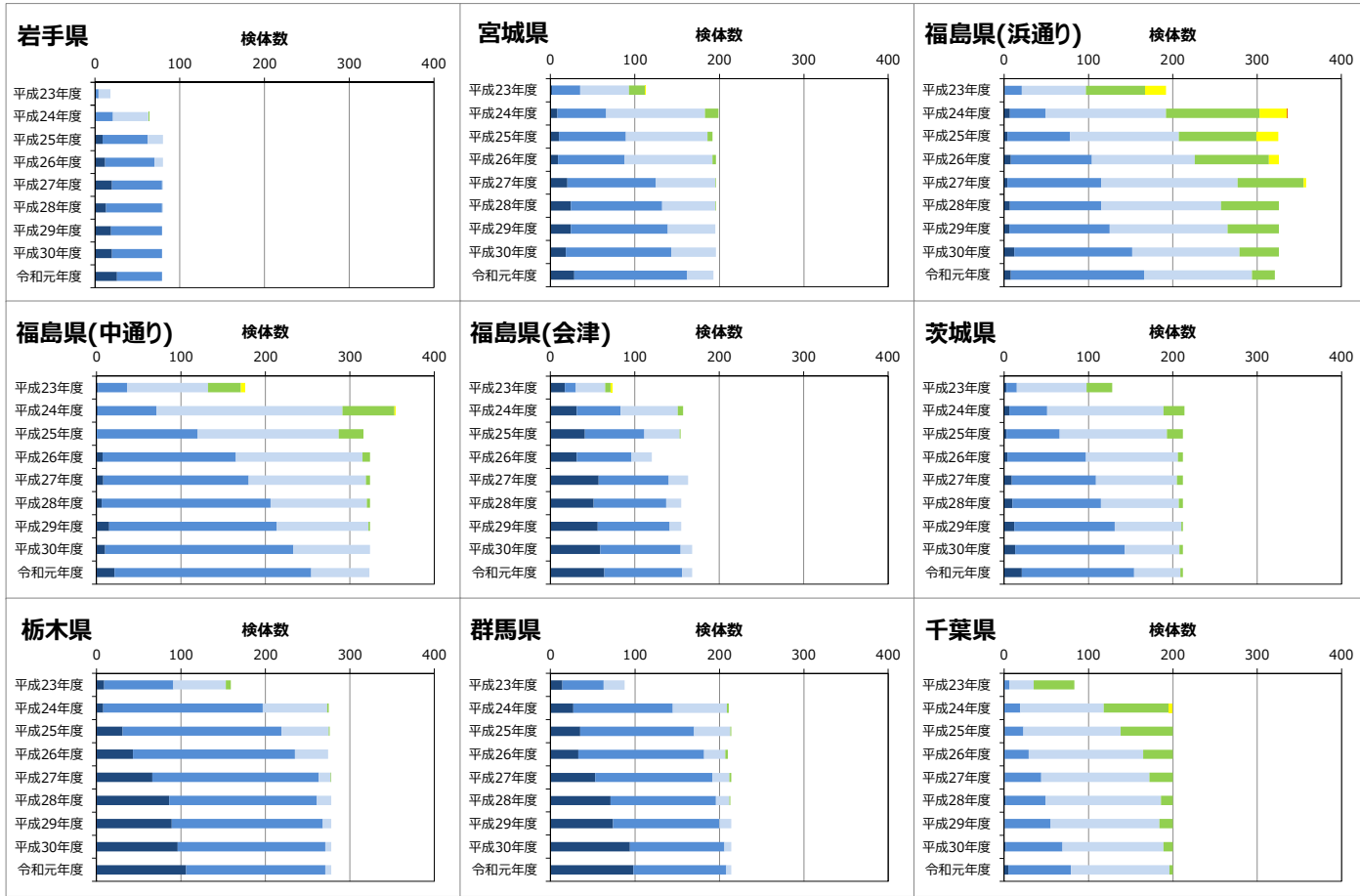
- 平成24年度以降は全ての地点で検出されておらず、令和元年度も不検出。

第2部 福島県及び周辺地域のモニタリング(結果:底質 検出状況)



(資料2 p55)

河川



- 高濃度の検出地点が減少するとともに、低濃度の検出地点が増加していることが認められた。
- 令和元年度について濃度区分で見ると、不検出が39地点（約10%）、100Bq/kg未満が221地点（約56%）、100～200Bq/kg未満が58地点（約15%）であり、200Bq/kg未満の地点が全体の約80%を占めていた。



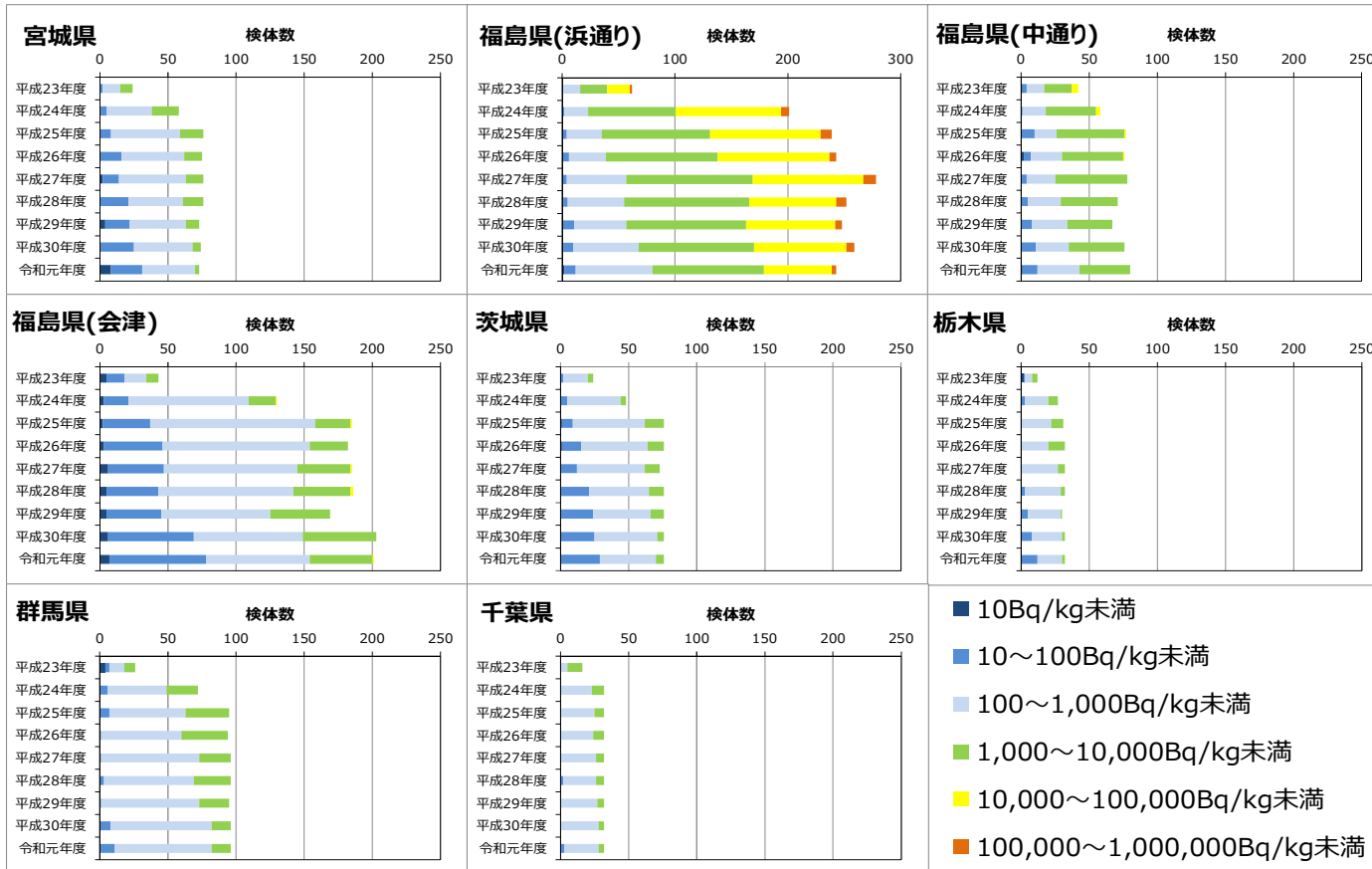
※検体数が少ない都県は割愛

第2部 福島県及び周辺地域のモニタリング(結果:底質 検出状況)



(資料2 p56)

湖沼



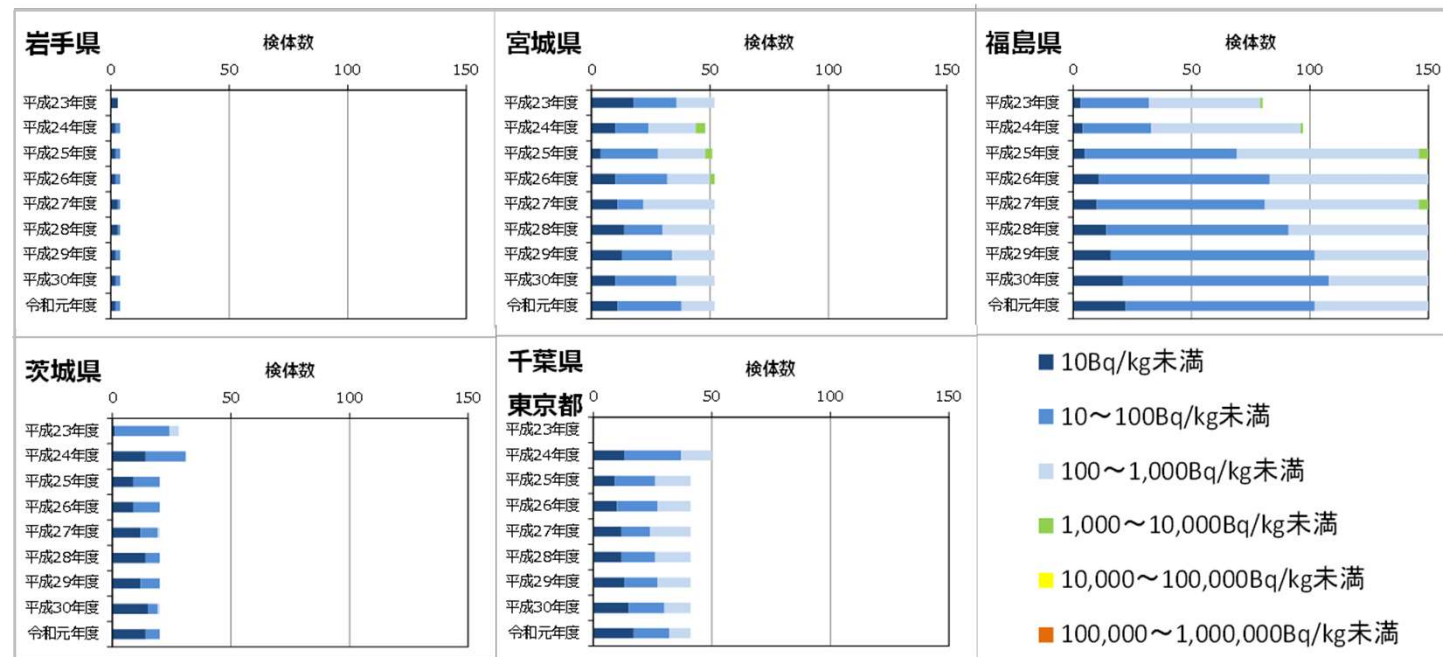
- 低濃度の地点の増加が認められるものの、その傾向は河川、沿岸と比較して緩やかで高濃度の地点が依然多く存在している。
- 福島県浜通り地域では、令和元年度にも100,000Bq/kg以上の値も認められている。
- 令和元年度について濃度区分で見ると、不検出が2地点、100Bq/kg未満が22地点（約13%）、100~1,000Bq/kg未満が77地点（約47%）、1,000~3,000Bq/kg未満が26地点（約16%）であり、3,000Bq/kg未満の地点が全体の約77%を占めていた。

第2部 福島県及び周辺地域のモニタリング(結果:底質 検出状況)



(資料2 p57)

沿岸域

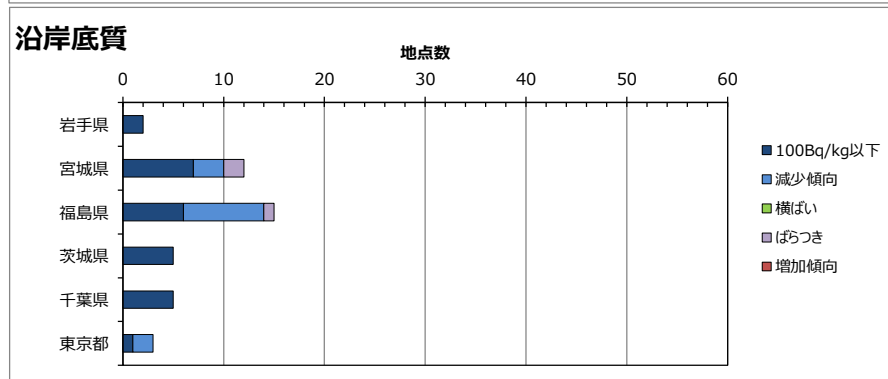
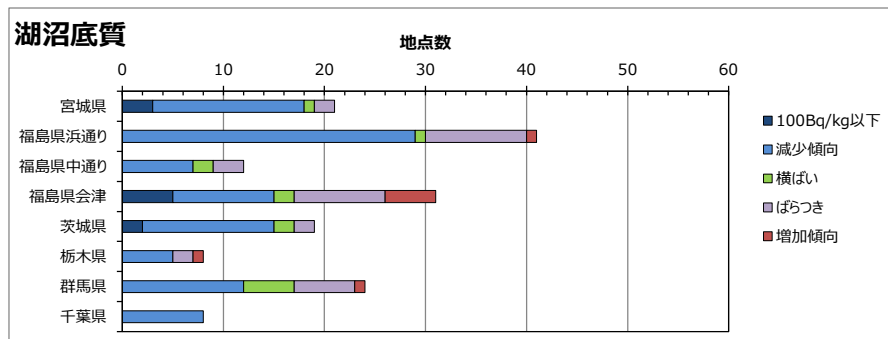
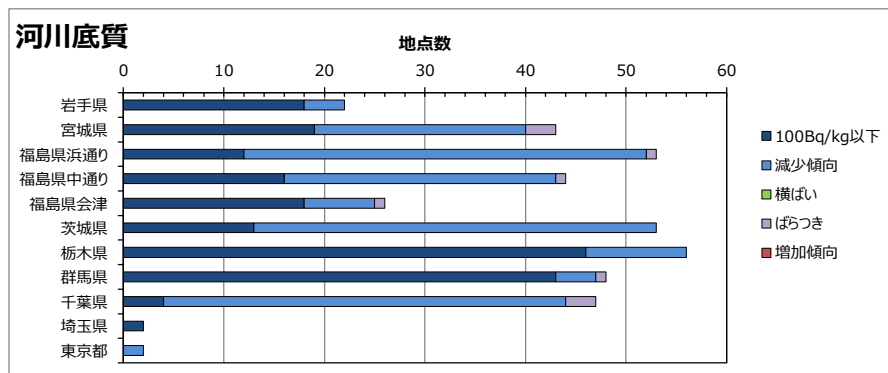


- 河川や湖沼に比べて濃度が低く、平成28年度以降は1,000Bq/kgを超える地点は認められていない。
- 令和元年度について濃度区分で見ると、不検出が9地点(約21%)、100Bq/kg未満が18地点(約43%)、100~200Bq/kg未満が4地点(約10%)であり、200Bq/kg未満の地点が全体の約74%を占めていた。

第2部 福島県及び周辺地域のモニタリング(結果:底質 増減傾向・まとめ)



(資料2 p48)



河川

- 約半数の地点で過年度を含めた平均値が100Bq/kg以下であった。残りの地点のうち、9割以上の地点が減少傾向で推移していた。

湖沼

- 約1割の地点で過年度を含めた平均値が100Bq/kg以下であった。残りの地点のうち、6割以上の地点が減少傾向で推移していた。

沿岸

- 6割以上の地点で過年度を含めた平均値が100Bq/kg以下であった。残りの地点のうち、8割以上の地点が減少傾向で推移していた。

第2部 福島県及び周辺地域のモニタリング(結果:底質 濃度レベル)



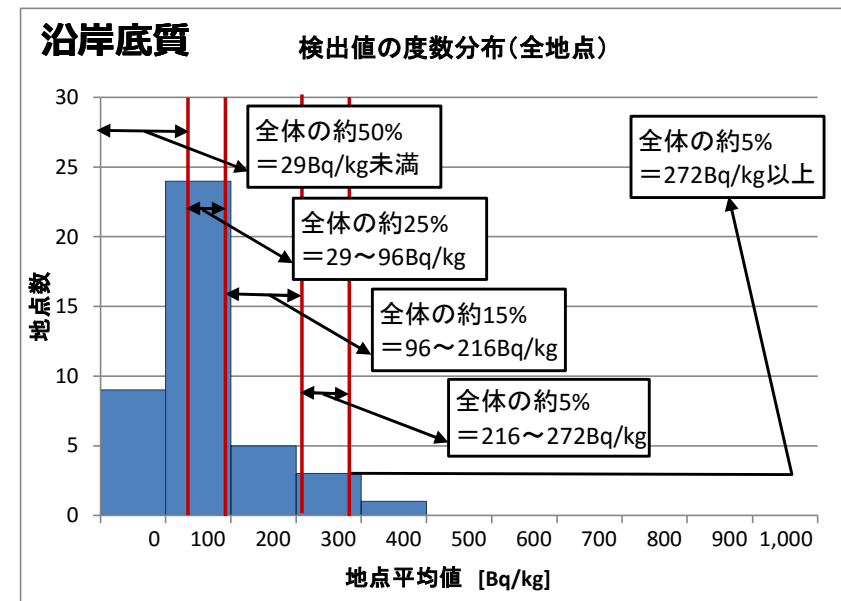
(資料2 p60～61)

検出値の相対的な濃度レベル

モニタリングを継続的に行っている地点のデータを用いて、以下の方法により全体の濃度レベルの推移を確認した。

- A) 令和元年度の各地点における放射性セシウム(Cs-134とCs-137の合計値)の全調査結果を用いて、地点ごとに平均値(算術平均。不検出はゼロで算出。)を求めた。
- B) 河川、湖沼、沿岸別に全ての地点平均値を数値の大きさ順に並べ、各地点が上位何パーセンタイルに属するかを、以下に設定した5区分により示した。
- 区分A：全体の上位5パーセンタイル以上
 - 区分B：全体の上位5～10パーセンタイル
 - 区分C：全体の上位10～25パーセンタイル
 - 区分D：全体の上位25～50パーセンタイル
 - 区分E：全体の上位50～100パーセンタイル(下位の50パーセンタイル)
- ※ 経年変化は、全体の上位75パーセンタイルも対象とした。

例:沿岸底質の濃度レベル設定



第2部 福島県及び周辺地域のモニタリング(結果:底質 濃度レベル・まとめ)



(資料2 p47、106)

河川

区分	区分の意味合い (図4.1.2-7参照)	【河川底質】 数値の範囲 [Bq/kg(乾泥)]	該当する地点数											総計	
			岩手県	宮城県	福島県			茨城県	栃木県	群馬県	千葉県	埼玉県	東京都	地点数	比率
					浜通り	中通り	会津								
A	全体の上位 5ハ-センタイル以上	522 以上	0	0	11	0	0	1	0	1	6	0	0	19	4.8
B	全体の上位 5~10ハ-センタイル	286 ~ 522	0	1	6	1	1	3	0	0	8	0	0	20	5.1
C	全体の上位 10~25ハ-センタイル	91 ~ 286	0	7	9	9	2	14	1	0	18	0	0	60	15.2
D	全体の上位 25~50ハ-センタイル	33 ~ 91	2	14	16	16	4	21	8	6	11	0	2	100	25.3
E	全体の上位 50~100ハ-センタイル	33 未満	20	21	11	18	19	14	47	41	4	2	0	197	49.7
合計			22	43	53	44	26	53	56	48	47	2	2	396	100.0

河川

- 全体(396地点)のうち、上位10%にあたる区分Aと区分Bに該当する地点は、福島県浜通りのほか、宮城県、福島県中通り、福島県会津、茨城県、群馬県及び千葉県でみられた。

湖沼

区分	区分の意味合い (図4.1.2-7参照)	【湖沼底質】 数値の範囲 [Bq/kg(乾泥)]	該当する地点数								総計	
			宮城県	福島県			茨城県	栃木県	群馬県	千葉県	地点数	比率
				浜通り	中通り	会津						
A	全体の上位 5ハ-センタイル以上	17,737 以上	0	8	0	0	0	0	0	0	8	4.9
B	全体の上位 5~10ハ-センタイル	6,316 ~ 17,737	0	8	0	0	0	0	0	0	8	4.9
C	全体の上位 10~25ハ-センタイル	1,396 ~ 6,316	0	11	5	6	0	0	2	1	25	15.2
D	全体の上位 25~50ハ-センタイル	403 ~ 1,396	3	10	4	4	6	3	10	1	41	25.0
E	全体の上位 50~100ハ-センタイル	403 未満	18	4	3	21	13	5	12	6	82	50.0
合計			21	41	12	31	19	8	24	8	164	100.0

湖沼

- 全体(164地点)のうち、区分A及び区分Bに該当する地点は、福島県浜通りでみられた。

沿岸

区分	区分の意味合い (図4.1.2-7参照)	【沿岸底質】 数値の範囲 [Bq/kg(乾泥)]	該当する地点数						総計	
			岩手県	宮城県	福島県	茨城県	千葉県	東京都	地点数	比率
A	全体の上位 5ハ-センタイル以上	272 以上	0	1	1	0	0	0	2	4.8
B	全体の上位 5~10ハ-センタイル	216 ~ 272	0	1	1	0	0	0	2	4.8
C	全体の上位 10~25ハ-センタイル	96 ~ 216	0	2	3	0	0	1	6	14.3
D	全体の上位 25~50ハ-センタイル	29 ~ 96	0	3	5	0	1	2	11	26.2
E	全体の上位 50~100ハ-センタイル	29 未満	2	5	5	5	4	0	21	50.0
合計			2	12	15	5	5	3	42	100.0

沿岸

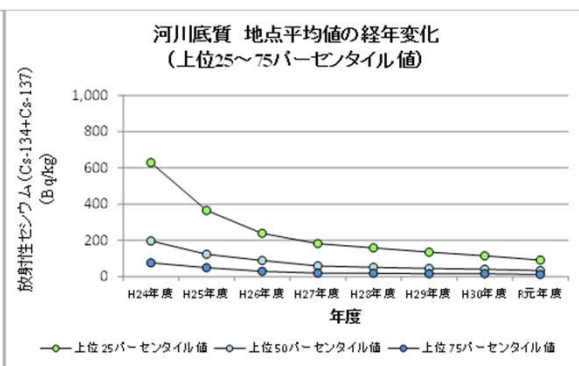
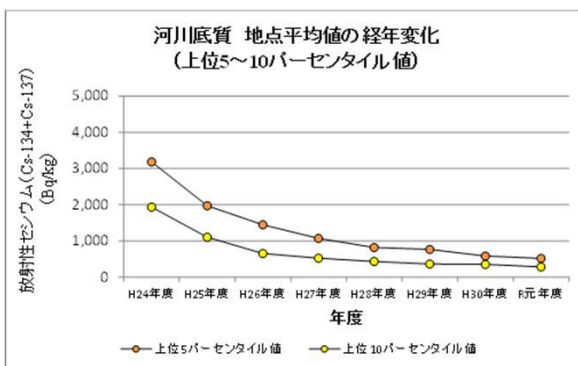
- 全体(42地点)のうち、区分A及び区分Bに該当する地点は、宮城県及び福島県でみられた。

第2部 福島県及び周辺地域のモニタリング(結果:底質 濃度レベルの推移)

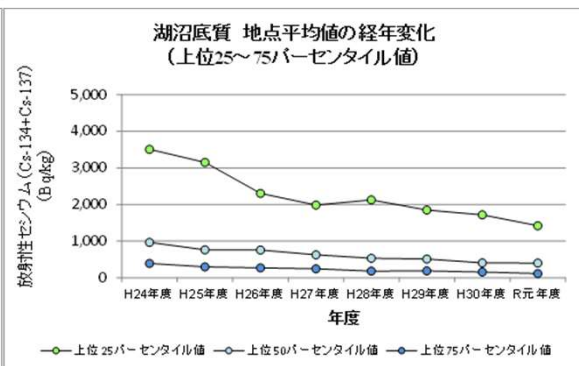
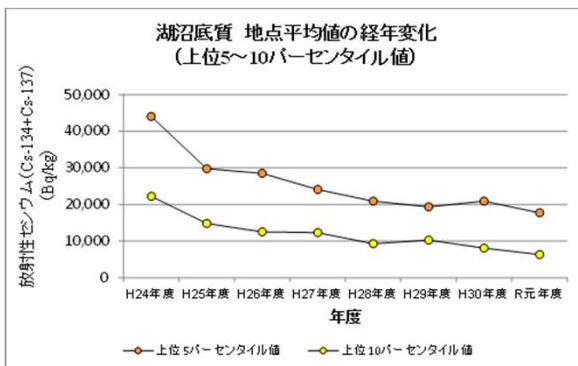


(資料2 p58~59)

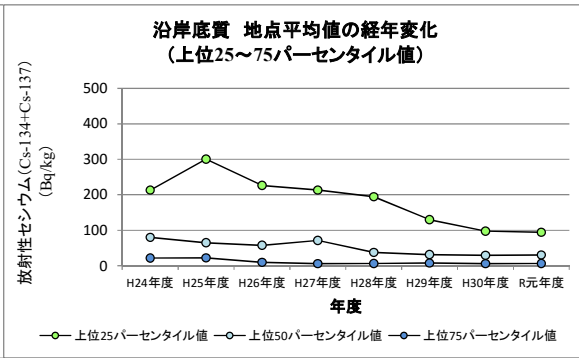
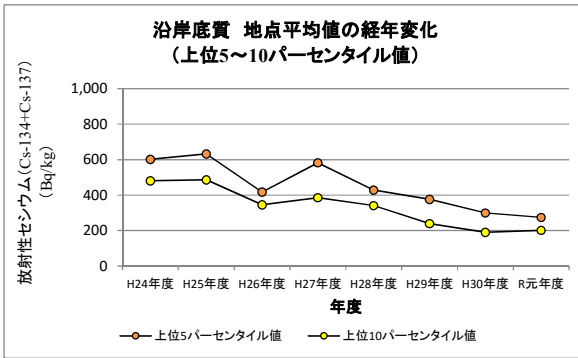
河川



湖沼



沿岸



[河川]

- 全て減少傾向を示しており、令和元年度は平成24年度の2割程度まで低下した。
- 令和元年度は、全体の95%(上位5パーセンタイル値以下の地点)が600Bq/kgを下回っていた。

[湖沼]

- ほとんどが減少傾向を示しており、令和元年度は平成24年度の4割程度まで低下した。
- 令和元年度は、全体の90%(上位10パーセンタイル値以下の地点)が8,000Bq/kgを下回り、全体の75%(上位25パーセンタイル値以下の地点)が1,500Bq/kgを下回っていた。

[沿岸]

- 多少の変動はあるものの、おおむね減少傾向を示しており、令和元年度は平成24年度の1/2程度まで低下している。
- 令和元年度は、全体の95%(上位5パーセンタイル値以下の地点)が約300Bq/kgを下回っていた。

第2部 福島県及び周辺地域のモニタリング(結果:ストロンチウム(Sr90、89))



(資料2 p113～114)

河川底質、湖沼底質、沿岸底質でのSr-90の検出状況

属性	都県	令和元年度				平成23年度～令和元年度			
		検体数	検出数	検出率 (%)	測定値の範囲 [Bq/kg]	検体数	検出数	検出率 (%)	測定値の範囲 [Bq/kg]
河川	宮城県	2	1	50.0	不検出 ~ 0.45	28	14	50.0	不検出 ~ 1.2
	福島県	6	4	66.7	不検出 ~ 0.46	104	57	54.8	不検出 ~ 12
	茨城県	4	3	75.0	不検出 ~ 0.71	37	21	56.8	不検出 ~ 1.8
	栃木県	0	-	-	-	8	3	37.5	不検出 ~ 1.3
	群馬県	0	-	-	-	6	2	33.3	不検出 ~ 0.70
	千葉県	6	2	33.3	不検出 ~ 0.39	46	19	41.3	不検出 ~ 1.1
	合計	18	10	55.6	不検出 ~ 0.71	229	116	50.7	不検出 ~ 12
湖沼	宮城県	3	3	100.0	0.66 ~ 0.85	46	41	89.1	不検出 ~ 2.2
	福島県	33	33	100.0	0.73 ~ 12	306	305	99.7	不検出 ~ 150
	茨城県	8	8	100.0	0.44 ~ 1.9	54	45	83.3	不検出 ~ 7.0
	栃木県	3	2	66.7	不検出 ~ 0.68	19	17	89.5	不検出 ~ 2.2
	群馬県	9	9	100.0	0.56 ~ 2.2	57	56	98.2	不検出 ~ 2.6
	千葉県	4	4	100.0	0.36 ~ 0.57	31	25	80.6	不検出 ~ 4.4
	合計	60	59	98.3	不検出 ~ 12	513	489	95.3	不検出 ~ 150
沿岸	宮城県	0	-	-	-	16	0	0.0	不検出
	福島県	0	-	-	-	201	8	4.0	不検出 ~ 0.78
	東京都	0	-	-	-	2	0	0.0	不検出
	合計	78	-	-	-	219	8	3.7	不検出 ~ 0.78

公共用水域

1) 底質

① 河川

底質中のSr-90は、令和元年度は18検体の調査が実施され、10検体で検出が認められた(検出率55.6%)。検出値は、いずれも1Bq/kg程度となっている。

検出値は平成26年度以降は2Bq/kg未満に漸減している。

② 湖沼

底質中のSr-90は、令和元年度は60検体の調査が実施され、そのうち59検体で検出が認められた(検出率98.3%)。検出値は基本的に比較的低いレベルで推移しており、令和元年度の測定値の範囲は不検出～12Bq/kgとなっている。

③ 沿岸

底質中のSr-90については、平成29年度以降不検出であるため、令和元年度は調査を実施していない。

2) 水質

水質(湖沼)中のSr-90は、令和元年度は2検体の調査が実施され、1Bq/Lよりも低い下限値(0.037及び0.040Bq/L)での測定においてもいずれも不検出であった。

第2部 福島県及び周辺地域のモニタリング(結果:ストロンチウム(Sr90、89))



環境省

(資料2 p116)

地下水でのSr-89、Sr-90の検出状況 (実施場所は全て福島県)

年度	Sr-90				Sr-89			
	検体数	検出数	検出率 [%]	検出値の範囲 [Bq/L](※1)	検体数	検出数	検出率 [%]	検出値の範囲 [Bq/L](※1)
平成23年度	8	0	0.0	不検出	8	0	0.0	不検出
平成24年度	60	0	0.0	不検出	60	0	0.0	不検出
平成25年度	77	0	0.0	不検出	77	0	0.0	不検出
平成26年度	48	0	0.0	不検出	48	0	0.0	不検出
平成27年度	48	0	0.0	不検出	48	0	0.0	不検出
平成28年度	48	0	0.0	不検出	48	0	0.0	不検出
平成29年度	48	0	0.0	不検出	48	0	0.0	不検出
平成30年度	48	0	0.0	不検出	48	0	0.0	不検出
令和元年度	48	0	0.0	不検出	48	0	0.0	不検出
合計	433	0	0.0	不検出	433	0	0.0	不検出

地下水

- 地下水でのSr-89及びSr-90に関する調査は、平成24年1月～令和2年2月に福島県において、433検体の調査が実施された。
- 調査結果の概要は表に示すとおりであり、全ての検体でSr-89及びSr-90は検出下限値(1 Bq/L)を下回った。

第3部 その他の全国規模で実施されたモニタリング(調査内容)



(資料2 p119)

「日本の環境放射能と放射線」ホームページの「環境放射線データベース」から以下のデータを抽出・整理した。

1. 地域

公共用水域 30地点

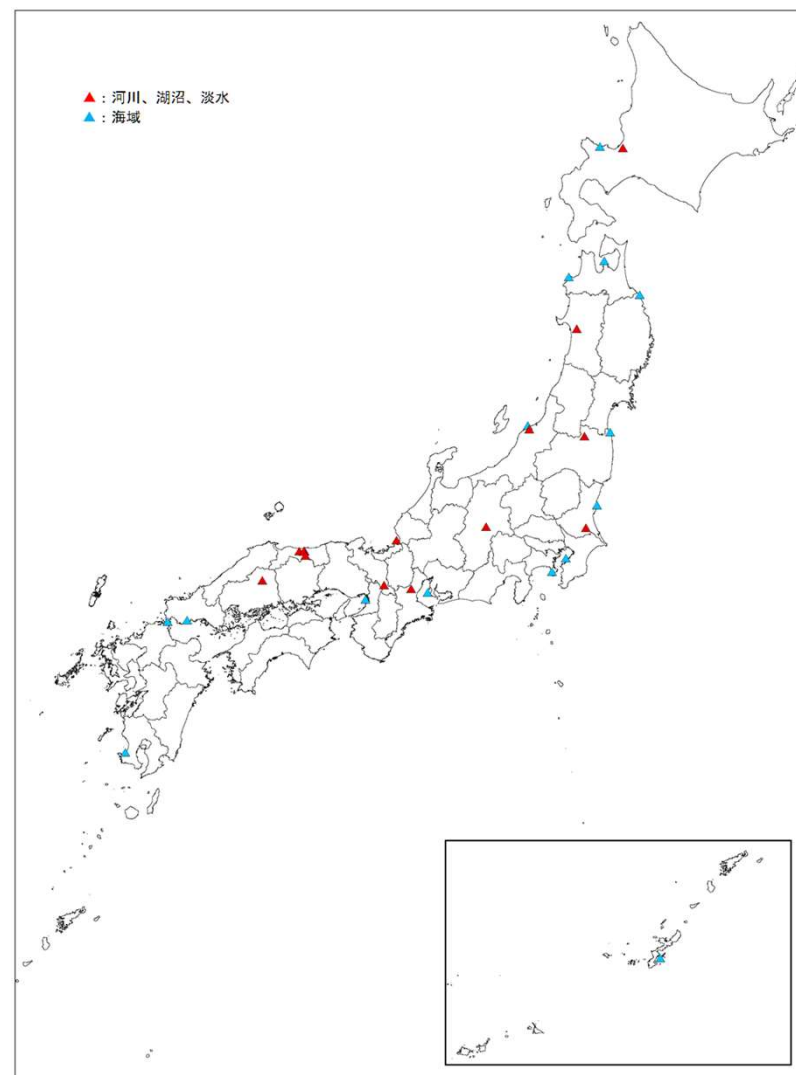
陸水(河川、湖沼、淡水)、沿岸

2. 対象

水質、堆積物(河底土、海底土)

3. 対象項目

全て



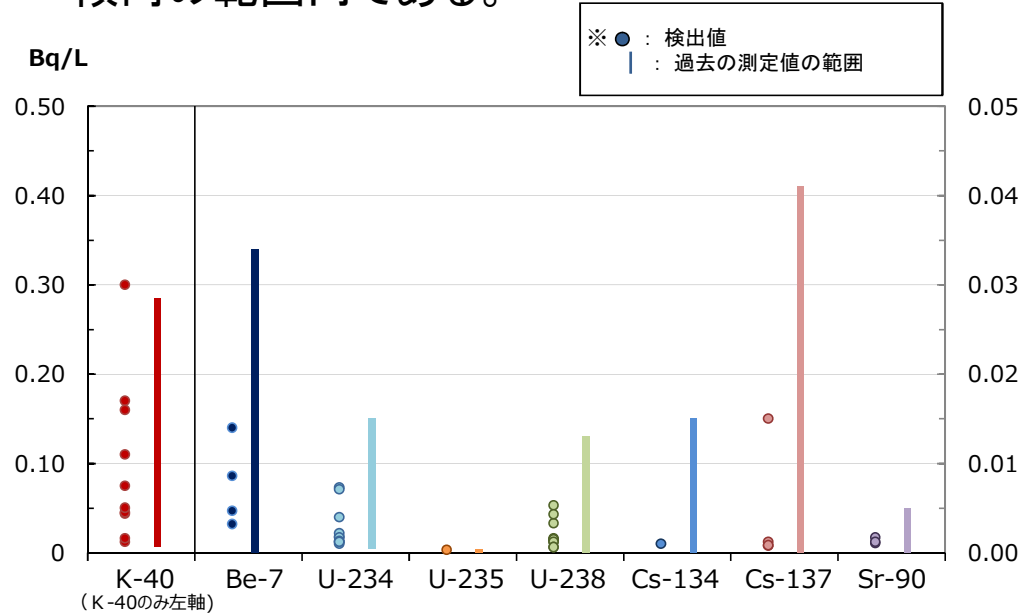
第3部 その他の全国規模で実施されたモニタリング(結果:水質)



(資料2 p122~123)

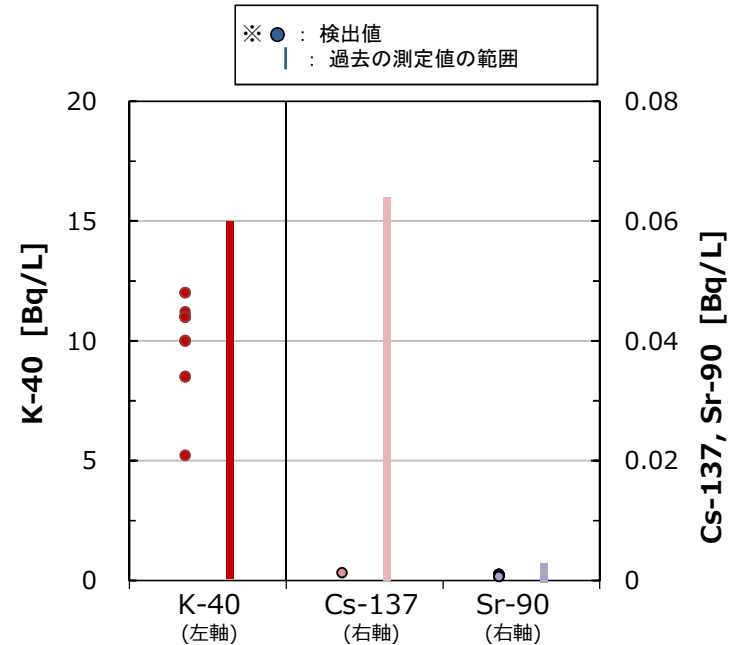
陸水

- 9核種 (Be-7、K-40、U-234、U-235、U-238、Cs-134、Cs-137、I-131、Sr-90) の報告があった。
※図中に無い核種は不検出であったもの。
- 過去20年間(人工核種は平成23年3月11日～平成26年3月10日を除く)の結果と比較すると、自然核種であるK-40が過去の測定値の範囲をわずかに超過しているものの、これまでと同程度の検出であり、過去の測定値の傾向の範囲内である。



海水

- 6核種 (Be-7、K-40、Cs-134、Cs-137、I-131、Sr-90) の報告があった。
※図中に無い核種は不検出であったもの。
- 過去20年間(人工核種は平成23年3月11日～平成26年3月10日を除く)の水準調査結果と比較すると、検出した全ての核種において過去の測定値の傾向の範囲内であった。



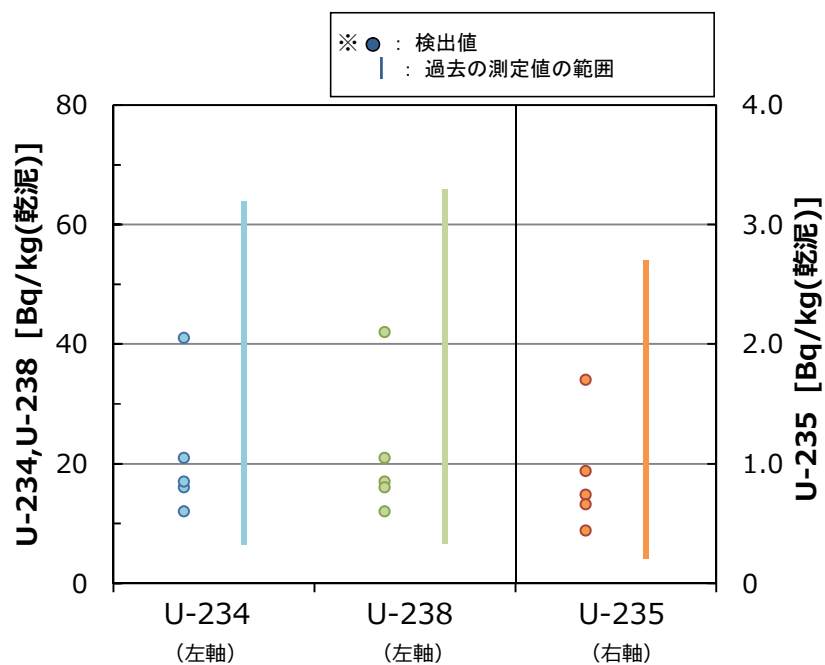
第3部 その他の全国規模で実施されたモニタリング(結果:堆積物)



(資料2 p124~125)

陸水堆積物(河底土)

- 3核種(U-234、U-235、U-238)の報告があった。
- 過去20年間の水準調査結果と比較すると、3核種とも過去の測定値の傾向の範囲内であった。



海底堆積物(海底土)

- 6核種(Be-7、K-40、Cs-134、Cs-137、I-131、Sr-90)の報告があった。
※図中に無い核種は不検出であったもの。
- 過去20年間(人工核種は平成23年3月11日～平成26年3月10日を除く)の水準調査結果と比較すると、検出した全ての核種において過去の測定値の傾向の範囲内であった。

